



特集

創部50周年を迎える 玉山運協青年部。

「盛岡商工会議所玉山地域運営協議会青年部」は、玉山村商工会青年部として創部した昭和39年から数えて、この秋50周年を迎えます。地元経済の振興、地域奉仕、異業種交流と幅広く活動を続けてきた青年部。各時代を担ってきた3人に、これまでを振り返ると共に、今後の活動について語っていただきました。



▼出席者

玉山地域運営協議会会長

千葉 進さん

同会青年部3代部長

米田 二郎さん

同会青年部現15代部長

千葉 洋平さん

—青年部創部当時から今まで どんな活動を行っていますか？

千葉会長／洪民と好摩を合わせた商工業者らで玉山村商工会が設立されたのは昭和37年。青年部の創部は、その2年後の昭和39年10月20日です。東京五輪が開催された年であり、日本全体が高度経済成長期に向かう時代でした。お互いの交流を深め、研修活動や地域振興、地域のボランティア活動などに積極的に取り組んでいましたが、最初は野球が中心だったようです（笑）。

米田／先輩たちは、好摩や洪民を切り拓いてきた世代。青年部創部以降体制の整備に力を注いできた。創部当時から玉山村商工会青年部の野球



4代部長として、現在も続く仕掛けづくりに尽力した千葉会長。

部は、県内で一目置かれるほど強く県外にも遠征に行っています。野球を通じて培った団結力は大きい。本格的な事業が始まったのは私たちの頃ですが、先輩たちのつくった土壌があつてこそです。私は昭和54年から3代部長を務めさせてもらいました。洪民と好摩の商店街が結集して行った「びっくり市」、「玉山村ふるさと祭り」をはじめ、先進地視察や経営研究会、啄木公園の清掃活動、歳末のチャリティーバザーなど、昭和50年代以降、活動は幅広くなっていきました。とはいえ、スポーツのつながりや呑みニューケーションがあつたから、次の事業へとつながっていった気がします。当時は商工会活動、PTA、地域活動と大忙しでしたが、皆よく頑張ったのは若さでしょうか。

—玉山地域運営協議会における 青年部の活動の位置づけは？

千葉会長／私は、青年部活動は異業種交流の場だと考えています。酒を酌み交わすことでいろんな話題が生まれ、本音で語り合える。昔から青年部はそれを大事にしてきましたね。

米田／4代青年部長を務めた千葉会長とは、長年一緒に活動してきました。県外から来た人なので、私たち地元商店主にとって視点が新しく、いろんなアイデアをもらった。平成元年頃に始めた週末ワゴンセール



青年部の本格始動となった3代部長を務めた米田さん。

「たからいち」もその一つです。ちょうど地元で大型ショッピングセンターができる話が持ち上がった頃。諸事情で実現しませんでした。地元商店街によるショッピングセンター建設の構想もあり、先進地視察や勉強会も重ねたこともありました。

千葉会長／ただ、そうやって動いた団結力や自信が青年部活動の原動力になっているのは確かです。石川啄木記念館・旧洪民尋常高等小学校の外壁塗装、姫神山登山口のベンチづくりなど、我々の時代から継続して行っています。8年前、盛岡市との

市町村合併によって商工会は会議所と合併し、青年部と女性部が組織として残ったことは、地元目線で活発な活動を続けるうえでも非常に大きなこと。青年部は現在、我々の息子世代が活動の中心となっており、私たちもOBとしてバックアップしています。

―現青年部の事業と、新しい試みは？―



若い世代の視点から地域振興に取り組む現青年部長千葉さん。

千葉現部長／現在部員は13名。昔は30名もいたようですが、玉山区の小売店自体が少なくなっています。ただ結束力は強く、玉山ホルモンのPR活動をはじめ、毎年行われる玉山区夏まつりでは売店を出したり子どもたち向けのイベントを企画し、盛り上げています。長年続く旧洪民尋常高等小学校の外壁塗装はすごく感謝され、私たちにとても大きな励み。また、子ども応援事業として数年前からフラッグアートづくりにも力を入れてきました。東日本大震災の被災地支援では、23年度・24年度と沿岸の青年部を訪問し、見舞金を届けるなど、沿岸青年部とのつながりを大切にしています。そして、今年には創部50周年。記念事業として、現在マスコットキャラクターを制作中。10月23日の記念式典にて正式に発表予定です。

―マスコットキャラクターの活用意図は？―

千葉会長／平成28年には行政合併10周年、平成30年には盛岡商工会議所

と玉山商工会合併10周年を控えています。玉山地域運営協議会の活動体制をしっかりと確立し、住民が連携し玉山区をアピールしていくために、イメージを共有できるキャラクターでPRしていこうと、青年部と共催で企画しました。昨年、石川啄木記念館が市の運営となったことも追い風に、玉山区の存在価値を高める道具としてマスコットキャラクターを活用していきたいですね。

千葉部長／玉山区は啄木、姫神山だけでなくワカサギ釣りで知られる岩洞湖の観光資源、藪川そば、玉山ホルモン、黒平豆、短角牛など特産物も多い素晴らしいところ。地元自治会からの期待も大きいです。名刺やホームページはもちろん、農協の出荷品にシールを貼ったり、グッズ販売や玉山区内の自社商品にも掲示するなど、地元の皆さんがある程度自由に使えようなくみを考えています。

米田／各イベントにも活用し、玉山区の物産拡大につなげていきたいですね。会議所が主体となってくるキャラクターですから地場産業につながらなくては意味がない。また、キャラクターづくりも含めて創部50周年をステップに、さらに青年部が地域を引っ張っていききたいものです。

―青年部活動の今後は？―

千葉部長／何より人員確保が課題ですが、積極的に声をかけていきたい。そのためにも呑みニューケーションは大事ですね。

千葉会長／一見無駄なところから物事は生まれるもの。交流は大切にしたいです。さらに奉仕活動や社会貢献を大事にしてほしいですね。

米田／私は民謡保存会の会長もやっていますが、高齢者施設を慰問訪問すると、若い世代が行くほど「孫が来た」と笑顔になる。そうした活動に力を入れるのもいいと思います。

千葉部長／それはぜひやってみて。高齢者施設だけでなく、保育園に足を運ぶなど幅広く地元社会に奉仕できる機会をつくっていききたいですね。



旧洪民尋常高等小学校外壁塗装活動